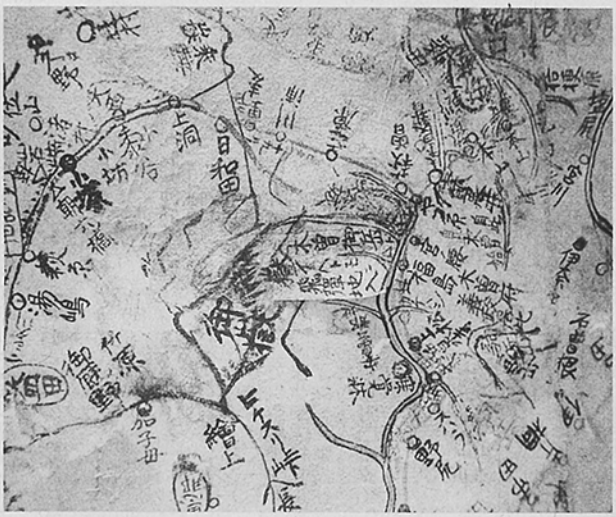
（第3種郵便物認可）　2021年（令和3年）5月19日（水曜日）

赤水資料修復に支援を

デジタル公開も　高萩市、ネット寄付募る

国の重要文化財に指定された高萩市所有の「長久保赤水関係資料」のうち、日本で初めて経緯線を記した日本地図「改正日本輿地路程全図」（赤水図）など損傷が見られる33点について、市は修復とデジタルデータ化を進める。費用の約半分は、ふるさと納税制度を活用したクラウドファンディングによる寄付で賄う計画で、310万円を目標に6月末まで募っている。



はがれた部分があり、修復が行われる長久保赤水関係資料（高萩市教育委員会提供）

高萩市出身で江戸時代の地理学者の長久保赤水（1717～1801年）が残した資料693点は昨年、国重文に指定された。

市教育委員会によると、このうち33点は破れや汚れ、彩色のはがれ、虫食いなどが散見されるという。

「国民の財産」となった貴重な資料を後世に継承しようと、市は2021～28年度の8年間で修復とデジタルデータ化に取り組み、広くデータを公開することで赤水に関する研究の推進にもつなげる。

今年度は、赤水図や、その原図の「改製日本分里図」などの修復を開始し、国宝や重文の保存修理の実績がある都内の専門業者に委託する。

修復された資料は、精細なデジタル撮影を行ってデータ化する。来年度以降は、資料の状態や活用頻度などを踏まえて優先順位をつけ、修復とデジタル化の作業を続ける。

費用は、今年度一般会計当初予算に計上した619万円の約半分を寄付で賄う計画という。寄付の申し込みは、市ホームページに掲載されているふるさと納税仲介サイト「ふるさとチョイス」で受け付けている。寄付5000円以上で、赤水図の原寸大レプリカの返礼品も用意した。

問い合わせは、市教委生涯学習課（0293・23・1132）へ。